

ナイスクでアダルト体験

東京外国語大学外国語学部トルコ語学科 4 年
インターン期間 2010 年 8 月～12 月
2010 年 10 月 読売新聞東京本社 一般記者職 内定

ナイスクで得たものは就活用の付け焼刃ではありません。人として働くための土台となるものです。だからこそ、私は本命の企業に就職する事が出来ました。私がナイスクでインターンをしようと思ったのは、4 月に、一番行きたかったマスコミ系の企業に全落ちして、途方にくれていた時でした。単に、同じマスコミ系の会社だから、という理由で始めたのですが、そこで経験したのは期待も想像も妄想も超える事ばかりでした。

街のほっとステーション、ナイスク

内定も無く、就職も決まらず宙ぶらりんだった私にとって、ナイスクは新しく出来た着地点のようなものでした。インターンを始める前は考えもしなかった事ですが、人にとって何処にも居場所がないと言う事は結構なストレスだったらしく、その事が面接時の自分の態度を萎縮させ、自信なさ気にさせていたのです。ナイスクで働き出してからは、その「宙ぶらりん感」が無くなり、無理やりでなく、自然と自分自身に自信を持つ事が出来るようになりました。また、仕事の面でも、インターンだからって責任のない仕事ばかり任されるのかと思いきや、そんな事はありません。やる気とチャンスがあれば、誰かれ構わずお仕事をくれます。無茶ブリが飛んできます。ある意味怖いですが、それが自分のためになるのは言うまでもありません。その無茶ブリを乗り越えたから、自信を持って就職活動できました。

アダルトなコミュニケーションの現場

コミュニケーション能力の高さは、どの企業でも業界でも重視されるものですが、それをきちんと理解できている学生はあまりいないと思います。ナイスクは「世界のコミュニケーション能力を変える」事をミッションとしています。私も、大人の世界の一步進んだコミュニケーションをたっぷり見て、身につける事ができました。例えば「他人が主語」である事。端的に言うと人の身になって考えるという事ですが、これで大抵の人間関係のトラブルが回避できます。そして、「タダ 5」。タダでできる 5 つの事、挨拶・笑顔・あいづち・拍手・名前を呼ぶ、の略です。これで、誰とも臆することなく会話する事ができます。ちなみに男性面接官に効果大です。他にもたくさんありますが、それはナイスクに行ってみてのお楽しみです。ただ用語を知っているだけではなく、これらを実践している社員さんたちを間近でお手本にすることによって初めて自分の物にする事ができるのです。就職活動も、結局は人と人のコミュニケーションの現場。自分の功績を押し付けるだけでは成功しません。学生同士には無いアダルトなコミュニケーションを学ぶ事で、就職活動はもちろん、もっと根本的に人間関係の上手な人になれます。よいしょ上手の社員さんたちからいっぱい学んでください。